

環境と暮らし

ニジマス、キウイは侵略的？

「外来種リスト」候補に

生態系に悪影響を及ぼす恐れがある。外来生物法の特定外来生物をあるとして国が策定を進めている。除外養殖や栽培を法的に規制する「侵略的外来種リスト（仮称）」候補にニジマスやキウイフルーツ、養蜂の蜜源のニセアカシアなど身近な動植物が含まれ、業界団体や産地が神経をとがらせている。

（山本真嗣）

侵略的外来種リスト（仮称）2010年に名古屋市で開かれた生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）で採択された「愛知目標」を達成するための国家戦略の一つ。外来生物法で原則、輸入や飼育、放流が禁じられているブラッ

クバスやカミツキガメなどの特定外来生物に加え、法的規制の対象外だが、注意が必要な外来種を選定し、生息状況や生態系への影響、被害対策などを盛り込み、国民や自治体の注意喚起を促す。14年中の作成を目指している。

「まるで有害生物」。ニジマスなどを養殖する愛知県淡水養殖漁業協同組合（同県設楽町）常務理事で、全国養鱒振興協会（同）会長の小堀彰彦さん（55）は三月に環境省が明らかにした約四百種のリスト案に危機感をあらわにした。

リストは対策や管理が必要な外来種を国がまとめるもので、策定方針が決まった二〇一一年度当初の名前は「外来種ブラックリスト」。だが「悪者との印象を与えかねない」（同省と

「まるで有害生物」。ニジマスなどを養殖する愛知県淡水養殖漁業協同組合（同県設楽町）常務理事で、全国養鱒振興協会（同）会長の小堀彰彦さん（55）は三月に環境省が明らかにした約四百種のリスト案に危機感をあらわにした。

リストは対策や管理が必要な外来種を国がまとめるもので、策定方針が決まった二〇一一年度当初の名前は「外来種ブラックリスト」。だが「悪者との印象を与えかねない」（同省と



漁協内にポスターを張り、ニジマスをPRする全国養鱒振興協会会長の小堀彰彦さん＝愛知県設楽町の県淡水養殖漁協で

産地や業者らピリピリ

紫根という植物生まれの成分、ごま油、ミツロウなど自然からとれた成分だけでできており紫外線（UV）を和らげる作用があるクリーム。顔、唇、目元などいろいろな部分に使えます。

紫根は中国で古くから使われているムラサキソウの根で、保湿、日焼けによるくすみ予防の効果があるといわれています。もとは化粧品メーカーの社員用クリームでした。毎日の通勤で長距離を歩いても白く透明感の

供したり、PR曲を作った。小堀さんは「ブラック」も「侵略」も悪印象は同じ。百二十年間利用してきた「侵略者」扱いはひどいと嘆く。「北海道以外でニジマスが自然繁殖している例はほとんどない」として除外を要望している。

キウイ生産日本一の愛媛県も「イメーダタウンの懸念はある」（農産園芸課）。



「『侵略的外来種』は世界的な基準の用語。変えるべきではない」と話す。

「『侵略的外来種』は世界的な基準の用語。変えるべきではない」と話す。

環境省が昨年十月、関係する約十の業界団体から意見を聞いた際にも名称変更やリストからの除外を求める声が相次いだ。このた

環境省が昨年十月、関係する約十の業界団体から意見を聞いた際にも名称変更やリストからの除外を求める声

のり面緑化に使われる資材の植物も候補となった。のり面緑化の業者らでつくるNPO法人「日本緑化工協会」（東京都葛飾区）常務理事の中野裕司さん（66）も「リストに掲載されれば、『問題のある植物』として公共事業で使われず、事実上の規制になる」とする。

名称の見直し

環境省も検討

各自「個人的見解」と断った上で、滋賀県立琵琶湖博物館の中井克樹専門学芸員は「『侵略』は人間社会を連想させ、業者の反応も分かる」と理解を示しながらも「産業利用を理由にリストから外したり、危険性の意味合いが弱まったりする名称ではない」とく

各自「個人的見解」と断った上で、滋賀県立琵琶湖博物館の中井克樹専門学芸員は「『侵略』は人間社会を連想させ、業者の反応も分かる」と理解を示しながらも「産業利用を理由にリストから外したり、危険性の意味合いが弱まったりする名称ではない」とく

くらし調査隊
納付できない
052(221)0999
電話受付：平日午前10時～午後1時
chousa@chunichi.co.jp
FAX 052(222)5284

新刊紹介
「生きて化石」生命40億年史
リチャード・フォーティ著（筑摩選書 22268円）
40億年の歴史において、5度の大量絶滅危機に見舞われた地球上の生命。大陸移動、隕石（いんせき）の衝突に全球凍結など、環境の激変をもともせず、今なお生き残っている生物がいる。それらがいかんして生き延びたのか、それから伝わる古代の地球の姿とは。

「生きて化石」生命40億年史
リチャード・フォーティ著（筑摩選書 22268円）
40億年の歴史において、5度の大量絶滅危機に見舞われた地球上の生命。大陸移動、隕石（いんせき）の衝突に全球凍結など、環境の激変をもともせず、今なお生き残っている生物がいる。それらがいかんして生き延びたのか、それから伝わる古代の地球の姿とは。